



ある冒険家の遭難

ユウパリコザクラの会代表 藤井 純一

昨年11月29日（現地時間）グリーンランド・スオラ  
パルク村で一人の男性が北極の海に消えた。彼の名は  
山崎哲秀（ヤマザキ テツヒデ）。

植村直己の「青春を山に賭けて」を読んですっかり  
著者の生き方に魅了され、冒険の道に進んだ。まず、  
手始めに植村さんに習いアマゾン川のイカダ下りに挑  
戦した。一度目はイカダが壊れて、財布もパスポート  
もすべて失い、失敗に終わったが、再度挑戦し5千キ  
ロの単独行を果たした。

20年前南極の昭和基地で、酒を飲みながら熱く語っ  
ていた事がある。「藤井さん、もう地球には、地理的冒  
険は無いよ。これからは学術的冒険が重要なんだ」と  
話していたことを思い出す。

1998年北極のスバルポール諸島に、ポーリング  
に行った年があり、時期は違うが雪水素の研究サポー  
トで彼も行ってた。そんなことで、妙に打ち解けた  
仲になった。南極ではフィールドアシスタントという  
立場で、研究者のサポートをしていた。私も、フィー  
ルドアシスタントで南極に行きたかったが、彼が先に  
決まり、環境保全という任務で隊員になったのである  
が、仕事をやりくりして彼の仕事を何度か手伝った。  
野外が多くなると、彼一人では手が回らなくなったか  
らである。出たところ勝負の私と違い、彼のサポートは綿  
密に計画され、完璧で研究者の信頼が厚かった。

第121号

2024.01.23 発行

(令和6年)

ユウパリコザクラの会

事務局(菊地)

〒069-0835

江別市文京台南町 53-13

FAX 011-387-1385

携帯 080-6090-1839

E-mail

info@yuparikozakura.org

Website

http://yuparikozakura.org

ようこそ花の夕張岳へ

https://www.facebook.com/

yuparikozakura/

いつだったか、木工工作室で音がしたので覗いてみる  
と、何やらソリらしくものを作っていた。イヌイットに  
習った作り方で、私も聞いてはいたが釘一本使わず、ひ  
もで縛る方式である。ソリのランナーを滑りよくするの  
に何が良いかを聞かれたので、スチールを張るよりもパ  
イプホースが良いでしょうと、半割にして人引きソリの  
ランナーを作ったことがあった。早速海水のルー  
ト工作に使用し、そのソリにルート旗を満載にして大陸  
（昭和基地は1周5キロほどの島）のとりつきまで氷厚  
を測りながら出かけた。私も何度か手伝ったが、彼の不  
屈の精神力は凄いものがあった。私など仕事が終わると  
バーで飲んだくれていたが、ストイックなまでもトレー  
ニング場で体を鍛えていた。帰国したら、グリーンラン  
ドを横断するのが夢だった。

前以隊（第45次）のオペレーションで内陸に物資輸送  
をすることになり、彼がその任務に就いた。前以隊の  
フィールドアシスタント（女性）と一緒に行動をし、の  
ちに結婚することになるのだが、「山・グリーンランド  
やるなら結婚するな」と偉そうに云った記憶がある。彼  
は北極圏環境調査プロジェクトアバンナット（ANAN  
GNQ・イヌイット語で強烈な北風の意味）を立ち上げ  
エスキモー文化の継承や、日本の極地観測の支援、エス  
キモー社会と日本社会の友好交流を図る活動を行った。  
彼女は日本で懸命にサポートしていた。今となっては複  
雑な気持ちである。

植村さんも、研究者がいけないところの雪などのサン



2016.2.19 消印で送られてきたハガキ

朝日 DIGITAL 記事

「北極に消えた犬ぞり探検家・山崎哲秀さん 極地観測  
に尽力、志半ばで」

https://www.asahi.com/articles/  
ASRDQ6X8YRDG0XIE002.html



プル採取を頼まれ、大変な状況の中、律儀に欠測するこ  
となく果たしたと聞いています。山崎も極地研究所、北  
大低温研のサポートを精力的にしていた半ばの遭難、さ  
ぞ無念であったろう。  
尚2016年シオラパルクから「日本自然保護大賞の  
受賞おめでとうございます。祝いに駆け付けれず申し  
訳ありませんでした。・・・」とお祝いのメッセージを  
もらいました。発見されていないので、何とも言えませ  
んが、セイウチにやられたのかもしれない。1月4日  
の朝日新聞にあらましが出ています。





北海道自然保護連合交流会（旭川）

11月4日・5日で北海道自然保護連合の交流会に3名で参加しました。今回の幹事は大雪と石狩の自然を守る会で旭川の和風旅館「扇松園」で交流会が行われ、翌日に見学会が行われました。

見学会はまず、嵐山・近文山に行きました。天気に恵まれて、嵐山の展望台からは、旭川の町越しに大雪山・十勝岳連邦、天塩岳方面までの眺望が楽しめました。一般の観光客も多く人気のようです。近文山では、尾根を境にして養分が少ない蛇紋岩土壌に生育するカシワの純林が特徴的でした。冠が低く、林内には短い笹が密生しています。頂上のポイントで北海道自然保護協会の在田会長から地変成帯のお話をいただきました。

アイヌ文化の森 伝承のコタンに移動して、アイヌの人たちの住居「チセ」3棟を復元展示したのを見学しました。実際にアイヌの人々が住んでいた「チセ」と呼ばれる住居や「プー」（食料庫）などが正確に復元され、自然と一体となった当時の暮らしを想像できました。最後は石狩川・近文大橋付近に移動して、サケの産卵床を見学しました。雨の後で、水量が多かったので中州までは行けませんでした。実際に数匹のサケが遡上しているのも確認できました。



嵐山展望台から旭川市街の眺望



コタンの「チセ」の内部



石狩川でサケの産卵床を見学

「自然と文化を学ぶ市民講座」開催

7月23日夕張市拠点複合施設「りすた」でユウパリコザクラの会主催で「自然と文化を学ぶ市民講座」を開催しました。

1講座目は早稲田宏一氏（NPO法人EnVision 環境保全事務所研究員）から「ヒグマとのつき合い方を考える」を90分、2講座目は山田哲好氏（元国文学研究資料館職員 千葉大学・一橋大学大学院講師）より、「組織（会）の記録を遺そう」を60分の内容でお話しいただきました。



市内（32名）＋市外（22名）を合わせ54名の参加者に2つの講座を聞いていただきました。第1講座目ではヒグマの生態から事故に合わないための防御策を学ぶ事ができました。

実際の熊の毛皮を用いた大きさの確認、また排泄物の内容を観察することによって、何を食べているのか等がわかるなど興味深い内容でありました。第2講座目では、①記録とは②記録の作成から活用まで③記録（含：電子媒体）のライフサイクル④公文書記録の現状と課題⑤江戸時代の記録管理の事例と続き、貴重な江戸時代の資料から読み取れる記録管理のやり方、その重要性を学ぶ事が出来ました。



成獣（オス）の毛皮で、実際の大きさを確認する



登壇前の山田氏

会費の継続納入・ご寄付  
ありがとうございます！

夕張岳の自然に興味のある方、当会の活動に関心をお持ちの方は、ユウパリコザクラの会へ入会またはご寄付をよろしくお願い致します。

年会費 2,000円 家族会員 3,000円

名義：ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座：02780-9-43747

【お仕事の例】

- ・監視パトロール（道委託 / 森林管理署協定）
- ・ヒュッテ管理人・維持管理（夕張市委託）
- ・高山植物観察員 / 文化財・森林観察員
- ・各関係団体との交流 / 広報・庶務作業



夕張岳ヒュッテの維持管理  
と炊事棟建設にご支援を！

林道での土砂崩れによる通行止めは、まだ続きそう。一般登山者のヒュッテの使用可能時期も先になり、宿泊協力金がゼロになる期間も伸びると思われ。しかしながら、冬季間のダメージの修繕や定期メンテナンス等の工事は進める必要があります。皆様からのあたたかい寄付を何卒よろしくお願いいたします。平常に林道が通行できるようにと願っています。

名義：ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座：02780-9-43747

（銀行間振込の場合）

ゆうちょ銀行 二七九店 当座0043747

